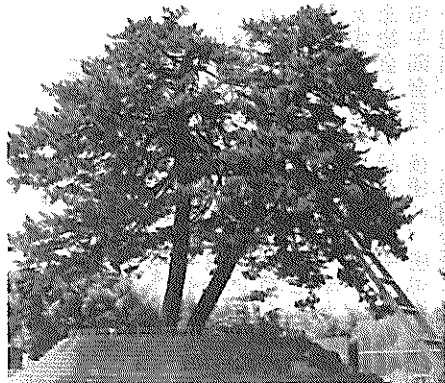


双松会会報

第13号 (「双松会」通巻18号・「松高北高同窓会報」通巻第18号)

発行 松江市奥谷町164
島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL ④4888・④0655
印刷 有限会社 高浜印刷所 TEL ④3000



ご挨拶



今年一月二十五日開催されました双松会総会に於て柴田前会長のご退任をうけ次期会長として不肖小生が推挙されました。小生健康上(永年の腰痛)不安がありご辞退すべきではないかと苦慮しましたが永年副会長として前会長を補佐し会長欠席の際は総会、協議会等しはば会長代行をつとめて運営に当った経緯があり、切角の会員諸士のご推挙を受諾するのが素直な仕儀であらうと就任することにいたしました。素より非学非才、会員諸兄のご期待には充分沿い得ませんが足らざることを補い指導ご協力をいただきます様お願いする次第であります。本校は今更申し上げるまでもなく、本校は昨年創立百十五周年の記念大会を挙行するなど全国屈指の永い歴史と輝かしい傳統を誇り二人の總理を始め高名な政治家、学者、文化人、スポーツマンのそれぞれ大物を輩出亦現在多数のす

ぐれた現役の方が県の内外で活躍中の名門校であります。今春赤山の学窓を巣立った生徒諸君は全員本会に入会され三月八日に入会式を行い歓迎激励いたしました。今後双松会会員として共に手をつないで会の発展と共に社会に貢献して貰いたいものです。今回で昨年に続き既に三万人を超える大同窓会になったわけですが素晴らしい伝統と環境に囲まれ質実剛健の校是の下全教師職員生徒一体となり文武両道に亘り豊かなたくましい人間育成に向けて日夜精進努力して居り、その成果は進学率、体育大会、文化活動等多方面に素晴らしく、輝かしい成績として発揮されて居りますことは洵にご同慶に堪えないところであります。かかる由緒ある名門校の同窓会長として自ら忸怩たるものがありますが誠心誠意その職業を全うする様努力する覚悟でありますのでこの上共ご協力ご鞭撻の程衷心よりお願い申し上げます。任のご挨拶といたします。

会長 庄司保親

伝統を引き継いで



盛夏を迎え双松会の皆様方には、益々御健勝にて御活躍のことと存じます。

松江北高校創立百十五周年記念総会が盛大に開催され、全国から各界で御活躍の会員諸氏が集われ、竹下元首相の記念講演を中心に赤山健児の意気を示されました。御盛会であったことを心からお祝い申し上げます。さて、昭和五五年來、本会の会長として会員を統率し、今日の隆盛をお導きなさった柴田前会長が御勇退になりました。柴田前会長の御功績に對し心から敬意を表する次第であります。代つて庄司保親新会長が御就任になり、一層の発展をめざして、新体制での順調な発足を心からお慶び申し上げます。

校長 藤木敦

一方、松江北高校にありましては、松本幹彦前校長が、輝かしい業績を残し今春を以て御退職になり、その後を受けて本校の校長を拝命致しました。もとより歴代の校長諸賢には比べるべくもない未熟者であります。皆様方の母校の更なる発展のために、盛意を尽くす所存であります。何とぞ御指導賜りますようお願い致します。ところで、近年の松江北高校生徒の活躍はめざましいものがあります。例えば、今春の大学合格者状況にしても、国公立大四二二名、私立大四七六名、短大等一六八名と、量、質ともに未曾有の成績をあげまして、マスコミにも取り上げられ全国の注目を集めていることは、既に御承知のことと思えます。一方、運動部に致しましては、去る六月に行われた県高校総合体育大会において総合優勝し、念願の三連覇を達成

柴田前会長と北高

兼折博

古い話である。私が再度北高に勤めることになったのは、昭和四十三年秋、丁度移転改築のことだったのである。双松会は田部会長、柴田副会長といった時期で、柴田副会長はそのお立場のせいでもあったろう。移転改築期成同盟の会長もお勤めになつていた。私の赴任したのは、この期成同盟結成の半年後だったようである。それ以後五十年三月退職するまで、私は右往左往することになるわけだが、この間この問題の中軸となつてご援助ご尽力頂いたのが柴田会長であった。

この移転改築は思いの外に面倒な仕事であった。すでに移転先の土地のことがらしてごたごたして、最終的には赤山の故地に決りしたが、その間ずいぶん紆余曲折があった。赤山に決つた後も、周辺の北堀、石橋、西原地区などからいろいろクレームがついて、双松会員が中心になつて事を処理して下さつたが、これらは皆、柴田会長の肩にかかつてくることであつた。

しかしこれら困難はまだ序の口、最大の難関は対県交渉であつた。県としても移転改築の基本方向は了承してくれてはいたが、いつからその工事をはじめるのか、その予算措置がいっこうにらちがあかぬ。その間、柴田会長にはそれこそ県教委や県にお百度を

通算九回目の優勝をなし遂げました。文化部にありましては、今年度、既に放送部がコンテストにおいて県総合優勝をしておりますし、英語弁論大会において県優勝をし全国大会への出場権を得ております。いずれも全国大会での活躍が期待されております。また、合唱部が常に全国のトップレベルにあることは周知のことです。このように種々多彩な活躍振りは誠に頼もしいことであります。

これは、申すまでもなく生徒諸君の優れた資質と真摯な学習活動によるものであります。それとともに、松本前校長の卓越したリーダーシップの下に、一致団結して、師弟同行の実践に努めた教職員活躍も評価すべきであ

踏んで頂いた感もあつた。それでもまあ、昭和四十九年度には第一期工事の子算がつき、事はやつと軌道に乗つたのが、退職直前の五十年三月、柴田会長のお供をして赤山での起工式に臨んだのが、今でもむしろ「苦い思い出」みたいな感じで記憶に残っている。

一方創立百周年という年も近く、大々的な記念行事や事業の計画もあつた。期成同盟とこれとは本来無縁だが、双松会は期成同盟の二本の柱の一つだつた。柴田会長ご自身も双松会副会長というお立場もあつたから、このことについても中心に立つて頂いたはずである。起雲館再建などもこの時の事業の一つであつた。

この外、本筋から外れたご迷惑もすいぶんかけた。川津校舎跡地処理のことと、並の常識では全く論外のことからなつていて、会長のお力を借りて辛うじて処理できたこともあつた。選挙の余波に双松会のことからなつて、ご自身には何のかわりもないことであらぬご迷惑のかかつたこともあつた。ふり返りつつ、あれもこれも感慨格別なものがある。

松 籟 (しょうらい)

「役員も徐々に若い方にも願ひして、若い会員諸氏からも期待していただける顔ぶれを整えたいものであります。」(昭和六十三年、双松会会報第九号)「こころ、二年、政界をはじめとする世代交替の現象は著しい。五月場所で見えた角力界の若手台頭など、気持ちのよいものであつた。しかし他人のことばかりではなく「老兵は去る」といふ言葉もある。」(平成二年、第十二号)とかねがねおっしゃつていた柴田前会長が、その役をお退きになつた。▼双松会の会長になられる以前から、北高の移転改築期成同盟会長として、西川津校舎から現在の赤山校舎への移転改築に随分お骨折りをいただいた。「われわれはもつと教育に関心をもち、卒業生として母校を愛すべきだと思ひます。この度の移転改築などは、めつたにない関心の深さを示す機会だと思ひます。」(昭和四十七年、松高・北高同窓会報第三号)進めるような御熱意の程が伺える。▼昭和五十五年松江中学・松江高校・松江北高の同窓会を一本化し、新「双松会」の発足と同時に会長に就任され、実に十年有余の永きに亘り、その重責を果たして来られた。その間、総合グラウンドの完成、二本松別荘・新生式、創立百十五周年記念事業等幾多の行事・活動を通じて会員の融和と連帯、双松会の隆盛に心を砕いていただいた。ここに深甚なる感謝の意を表するとともに、今後本会への倍旧のお力添えをお願い申し上げます。▼柴田前会長に代り、庄司新会長に御就任いただいた。学生時代は柔道で鳴らされたお方と伺う。既に本会の副会長として御尽力いただいていたが、新会長にお迎えして双松会もますます力強く前進して行くものと確信する。▼二本松もその跡継ぎの新生松がすくすくと育つて居る。北高は今年も昨年、一昨年に続き三年連続総合優勝を成し遂げ、学習面においても大学進学に未曾有の合格者を出す等、文武両道に輝かしい成果をあげている。老松の伝統と新生松の若々しさを兼ね備えているかの様だ。

新会長に庄司保親氏就任

平成三年度 前会長柴田午郎氏は顧問に 第二回役員会

百十五周年記念総会後に持ち越され... 役員改選を主議題とした第二回役員会が、平成四年一月二十五日(土)...

双松会役員

- 顧問 柴田午郎 44期 能義郡伯太町東母里四八三
会長 庄司保親 22期 境港市渡町二二二八
副会長 兼 折博 52期 松江市北田町六九
事務局長 三島欣二(教頭)

百十五周年記念総会、盛大に開催

赤山移転にあわせて創立百周年記念総会が開催されたから、開かれていなか...

当日は、北高体育館において、記念式典が行われた後、竹下元総理大臣(松中61期)の講演が、これからの日本経済...

一四・三〇一五・三〇 記念講演 講師 竹下登元総理大臣 (北高体育館)
演題 「これからの日本経済」 (松中61期)
一六・三〇一八・〇〇 祝賀会 (ホテル一畑)
会長あいさつ スピーチ
成瀬 恭氏(東京双松会代表)
児玉治利氏(近畿双松会代表)
万歳三唱 玉木東部双松会会長

平成四年度 第一回役員会開催される

本年度第一回役員会は、約八十名の出席者を得て去る六月二十七日に、一文字ホテルで開催された。

一、平成三年度会務報告
一、平成三年度会計決算報告並びに監査報告
一、平成四年度会計予算審議
一、その他
報告

平成3年度双松会会計決算書

Table with columns: 収入, 支出, 収入総額, 支出総額, 増減額. Includes sub-tables for 収入 and 支出 with detailed item breakdowns.

平成4年度双松会会計予算書

Table with columns: 収入, 支出, 収入総額, 支出総額, 増減額. Includes sub-tables for 収入 and 支出 with detailed item breakdowns.

平成3年度通信制同窓会決算書

Table with columns: 収入, 支出, 収入総額, 支出総額, 増減額. Includes sub-tables for 収入 and 支出 with detailed item breakdowns.

平成4年度通信制同窓会予算書

Table with columns: 収入, 支出, 収入総額, 支出総額, 増減額. Includes sub-tables for 収入 and 支出 with detailed item breakdowns.

通信制 役員会報告その他

事務局長 坂本育穂
昨年の双松会総会への通信制の出席者ばかり呼びかけをしたものの結局10名でした。出席者は左記のとおり。

通信制の仲間は当日の会場の中ではホンの一握りの数でしたが、各々に意気軒昂として通信制の存在をキラリと光らせました。

一、平成三年度決算報告(野津副会長)
一、関連して昨年度の全国定通体育大会報告で野球は準優勝、軟式野球は団体・個人、卓球は団体で第3位に入賞(梶村)。

同監査報告(小笹監事) 積立金

皆さんよりの寄付金をこれに充てることになっている(の会計について、従来一般会計の帳簿に記載されていたが、繁雑であるので別途会計として処理するよう指摘を受けた。決算報告承認)。

平成四年度予算案(藤原会長)
本年度全国定通体育大会の補助をいかにするかについて審議。出場選手は計65名であると説明(梶村)。

その他。会則第10条により藤木校長、木島教頭を顧問に推薦。懇親会 自己紹介を交えてあちらこちらで歓談が行われると通信制仲間の絆は一層強まり和やかに会を終了しました。

一、送付先 松江北高通信制同窓会 事務所
二、〇〇〇円
三、〇〇〇円
なお、本年卒業の内藤政江さんを中心に開かれた「思い出に話を聞かせる会」からすでに寄付を頂いております。

各期だより

松中五十三期

田辺 暉

島根本部総会を平成四年六月七日(日)午前十一時より臨水亭(松江市末次本町十三)にて開催。出席者十八名。総会パンフレット53の次第により物故者の霊位に黙祷。原田代表幹事の挨拶に始まり、平成三年度会計決算報告及監査報告。そして役員改選を終了し、つづいて来年は卒業六十周年に当り、全国大会を盛大に挙行することに決定した。

つづいて懇親会に入る。毎年二階で開いていたが、本年は出席者が少いので一階で開いた。これだけでも様子が変わった様に感ずる。筆者はこの附近で住んでいるので、この裏の宍道湖岸で泳いだり、魚をとったりした子供時代を懐しく感ずる。壁には五三会旗を掲揚して志気の昂揚をはかる。

毎年会っていても話はずきない。懐かしさがこみあげる。特に来年は夫人同伴という、おまけが付いた。酒の好きな会員は大いに気が合うのか、気炎をあげている。赤山健児の歌 朝敵直刺す雙松の 天籟胸に光あり…… 非常に元氣よく歌う。そして来年の六十周年記念に再会を期しておひらきとなる。

松高五期同窓会報告

北浦 仁

双松会の皆さん、お元気ですか。松高五期同窓会からひさ方ぶりの投稿です。去る五月二十三日に三年ぶりの同窓会を開催いたしました。場所は、新装なったサンラボーむらぐも。その時の様子をお知らせいたします。まず、五期卒業生のプロフィールを少し。卒業は昭和二十九年。総数六十一人。男子二七五人、女子三三六一人。五五%の人が県内で頑張っています。今回発送した案内状は五五〇通。同窓会出席者は一〇六名。男女ほぼ同じ出席率でした。遠く関東から八名、関

西から十一名、近在県から六名、県内から八十一名の内訳です。ここで一つお断りしておきたいことがあります。それは、今回は恩師の先生方にはご案内しなかつたこととあります。紙面を借りて深くお詫言ひ申し上げます。当日は、午前中は恒例の親睦ゴルフコンペ。懇親会スタートは十八時。開会に先立ち記念写真の撮影。歳はとつたとはいえ、流石に女性群はまだまだ華やかでした。先日写真が送られてきました。これを見てさらにその念を強く抱きました。もともと、男性群も頼もしい紳士ぞろい、なかなかのものであったことも付け加えておきます。そのほかに、この写真撮影のときの皆のほしやぎようは全く学生時代そのものでした。懇親会には宮本久子氏の軽快なる司会が始まりました。小玉幹事長の挨拶に続いて校歌斉唱。出だしはおすおすとしたものでしたが、歌い進むほどに声高らかな斉唱となりました。学生時代にはこのようなしつかりした校歌を聞いた覚えはないように思っています。

同窓会と決まりました。幹事校は一中と附中。万歳で締めくくった後は、なお語り足りない人、飲み足りない人、何となく別れがたい人、皆合い集って二次会へ。夜の更けるのも分らないくなるほどの楽しい一日でした。今回参加できなかった方々、次回ぜひお会いしましょう。そして、皆元気で入学還暦同窓会、卒業還暦同窓会にも参加するよう頑張りましょう。今回の同窓会に対し、色々な方から色々なご支援をいただきました。いちいち列記いたしません、厚くお礼申し上げます。最後にになりましたが、他界された方々に対し心から哀悼の意を表しまして、報告を終えたいと思います。

追伸 今後、地元の連絡事務局として、福村豊之君にお世話頂くことになりました。大いにご利用下さい。連絡先は下記の通り。 下六九〇 松江市末次本町三三二 趣味のはきものタツミヤ TEL (〇八五二)二一五五四四 (自宅) 松江市内中原二九六 TEL (〇八五二)三三〇七五二

昭和三十一年三月卒業以来三十五年、七期同窓会は二十年ぐらいい前から、ほぼ二、三年おきに開催してきた。そして、十年、五年の区切りの年にはその輝きを見せたい。前年からは近況報告もして、前回は三年先の還暦記念として、その前年に完成した「サンラボーむら

乾杯を合図に楽しく賑やかな交流の場が大きく膨らんでいきました。なつかしい顔顔。出雲弁丸出しで会話が弾みます。髪が白くなったり額が広くなったりはしていますが、どの顔も学生時代そのままです。そして、出席者皆が円熟の時期にあり、それぞれがすばらしい輝きを見せていました。 関東、関西の出席者から近況報告もしてもらいながらのあつとつというまの二時間でした。今回は三年先の還暦記念

松高七期

吉野 富雄

昭和三十一年三月卒業以来三十五年、七期同窓会は二十年ぐらいい前から、ほぼ二、三年おきに開催してきた。そして、十年、五年の区切りの年にはその輝きを見せたい。前年からは近況報告もして、前回は三年先の還暦記念として、その前年に完成した「サンラボーむら

追伸 今後、地元の連絡事務局として、福村豊之君にお世話頂くことになりました。大いにご利用下さい。連絡先は下記の通り。 下六九〇 松江市末次本町三三二 趣味のはきものタツミヤ TEL (〇八五二)二一五五四四 (自宅) 松江市内中原二九六 TEL (〇八五二)三三〇七五二

「近畿双松会総会」案内

平成四年度総会を左記の通り開催致します。久し振りに母校、郷里のことう等々出雲弁で歓談しましょう。 同窓各位(ご家族)多数の来会歓迎。

一、日時

平成四年十一月二十八日(出) 十三:〇〇時 大阪府西區肥後橋「除園」 当日恩師、北高校長、教諭の方々が臨席されます。

二、場所

詳細問合せは左記迄 千五五〇 大阪府西區本田一四一三九 石倉ボンブ(株)内 近畿双松会事務局 TEL 〇六一五八三一四九〇

十四期 卒業三十周年記念 同窓会のお知らせ

大原 正俊

三八八(昭和三十八年卒)の同窓会を次の期日で開催いたしますので多数の皆様のご参加をお願いいたします。なお詳細につきましては後日ご案内いたします。 〇とき 平成五年八月十四日(出) 〇連絡先 野津 昌生 〇八五二〇〇六五五 長 廻 和 助 〇八五二〇三三三四六

くも」において、三十周年のときには及ばなかつたものの、百五十余名の同期生の出席を得、恩師藤原治、藤原もと代、兼折、岩成、林、袖本の諸先生及び母校北高の松本幹彦校長のご臨席を仰ぎ盛大に開催できました。

まず、中庭で先生方を囲んで写真撮影をした後、杉原瑩子さんの司会で開会した。校歌斉唱のあと、県の福利課にあつて、サンラボーむらぐも建設の直接の実務担当者で、会場予約を担当しながら、一月に急逝した横田君、幹事として常に世話をしていた玉城君をはじめ、二十四名の物故者に対する黙祷を行った。そして、森脇義弘実行委員長、来賓代表藤原もと代先生、北高松本校長先生のあいさつ、のあと、兼折博先生の乾杯の音頭で宴に入った。しばらくして、三年時のクラス別に恩師の先生に入っていたらいて写真撮影を行い、全体写真と共に二頁見開きのミニアルバムにして、後日出席者全員に郵送したが、大変好評であった。撮影をしていただいた八期米沢直行氏(米沢写真館)の発案、編集によるもので、感謝している。会は約二時間の一次会、のあと、二次会、三次会と盛り上がり、約五十名の県外在住者も久方振りの松江の夜を満喫されたことと思う。 尚、関東地区在住者の会は毎年開催されておられ、本年も五月二十二日(金)日比谷の「松本楼」において開催され、松江から内藤、吉野が参加した。席上

三六会

大原 正俊

若いつもりでも、松江高校を卒業しては三十年。 セピア色の旧川津校舎をモチーフとした、田代秀彦氏(インペリアル・エスタープライズ)作成の案内状により、平成三年八月十二日、全国各地から玉造温泉での「卒業三十周年記念同窓会」に参集した。 お盆のかき入れ時にもかかわらず商売をなげうって、同窓会の会場を引き受けた井山(旧姓村井)丹君に感謝しつつ、玉井別館には若人が約二百名。昭和三十三年に入学して初めての辛く苦しい体験——宍道湖一周。この宍道湖一周、マラソンを全校一位で三連覇した大塚浩司君(東北学院大学教授)も仙台から駆けつけた。 帰省のための航空券を確保してくれたい金本澄男君(公認会計士)の努力もあり、東京同窓会組は三十八名。 午後二時の受付からすでに熱気ムンムン。温泉につかつて、四時三十分、前庭での全員の記念撮影。

五時、後藤久人君(母校の英語教師)の司会で開会。若くして亡くなった十名名の同窓生への黙とうをした後、わが十二期を束ねる幹事長、岡美知雄君(松江商工会議所)の実行委員長挨拶。そして一年時の担任をされた松本幹彦校長先生による学校の近況報告。三十周年を記念して母校へ記念品を贈呈し、懇親会に。

補導部のおぞい先生であった!福岡宏先生のご発声で乾杯。ルーム毎の記念撮影をしたり、頭の白さを忘れ、松高時代にかえつてにぎやかな宴。アツという間には流れ、高らかに校歌を斉唱し開会。 パスを仕立てて松江市内の二次会場へ。中村忠正君の経営するメイビーに入りきれないメンバーは、仕方なく伊勢宮付近の馴染みの店へ。熱き一日はかくして終わる。 翌十三日、四十名の有志はカントリクラブで「三十周年記念ゴルフコンペ」を開催し、グリーン上でまた懇親会で若さを再燃。十四日、東京組は航空機でツアー帰京。 われら十二期同窓会は、卒業年度にちなんで「三六会」と命名した。岡幹事長を中心に校内幹事の後藤久人君、田中久志君、野々村(旧姓横山)恵子さんと連携プレーをとつた、まとまりのよいのが自慢でもある。 昭和五十一年「十五周年記念同窓会」をきっかけに東京同窓会も発足した。 これまでに松江高校百周年記念同窓会に集まったり、五十八年の正月にはバスを運んで「厄払い同窓会」を企画し、横山宏充君の美保神社でお祓いをしてもらうなど、地元の幹事諸兄のお骨折りで、今日まで五年毎に集まっています。

事務局だより

事務局(校内幹事)の転出入 平成四年四月の人事異動 (退職) 松本 幹彦(理科)高1期 (転出) 長谷川正矩(国語)高8期 松江南六道 分枝へ 安田 和彦(国語)高13期 平田高校へ 福田 正(数学)高18期 横田高校へ 津森 敬次(社会)高30期 隠岐島前 高校へ (転入) 古津 康隆(社会)高11期 松江南六道 分枝へ 田中 達男(社会)高13期 松江南六道 分枝へ 多和三孝(数学)高38期 松江南六道 分枝へ

編集後記

今年も北高生の活躍は続いています。国立大学の合格者数で全国第四位の成績、県高校総合体育大会においても三年連続の男女総合優勝を成し遂げました。今年の七月までか、昨年八月から今年七月までの一年間で、北は青森から南は熊本までの合計三十三の学校あるいは団体から訪問を受けました。特に二月から三月にかけてはその半数の十六校が殺到しました。 新会長、新校長のもとでの双松会会報第十三号をお届けします。御多忙の中、快く原稿をお寄せ下さいました方々に心からお礼申し上げます。 また、次号の原稿を募集しています。同窓会の様子、思い出、近況報告など何でも結構です。「各期だより」の欄の御利用をお待ちしております。

